

## 「国語教育研究 I」の授業の検討

国語教育講座 中西 淳

### 1. 講義の概要

本講義は、国語教育の問題点を踏まえた上で授業を構想することのできる力を養成するところにその特徴がある。その目標及び具体的な到達目標は以下の通りである。

<目標>

○国語教育の主要論文・実践や教科書を取り上げながら、国語教育のあり方について考究することができる。

<具体的な到達目標>

○自らの問題意識に即しながら国語科教育に関する主要論文を探し出すことができる。

○論文を批判的視点を持つて的確に読むことができる。

○自らの国語教育観を深めることができる。

これらは、教育学部 DP の以下の二点に該当する。

○自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。(関心・意欲)

○教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。(思考・判断)

### 2. 授業の展開

授業の展開は以下の通りである。

- ① 国語科教育に関する学びの振り返り  
—カリキュラムにおける位置づけ—
- ② 国語科教育の現状と目標  
—新学習指導要領の検討(中学校)—
- ③ 新学習指導要領の検討  
—「内容」の検討—
- ④ 学習指導要領の変遷  
—新旧の比較—
- ⑤ 国語科教育の問題について考える  
—問いを発する力—
- ⑥ 国語の教材性  
—新聞と国語科教育—
- ⑦ 国語の授業のあり方①—気持ちを問わない文学の授業—

⑧ 国語の授業のあり方②

—国語単元学習—

⑨ 国語の授業のあり方③

—語彙指導(類義語指導)—

⑩ 国語の授業のあり方③

—読書指導—

⑪ 海外の国語科教育

—カナダ・オンタリオ州のコミュニケーション教育(その1)—

⑫ 海外の国語科教育

—カナダ・オンタリオ州のコミュニケーション教育(その2)—

⑬⑭⑮ まとめとレポート作成

### 3. 講義の工夫点と留意点

本講義は、これまでと同様に基本的に学習者の問題意識に即してその内容を決定していった。前回の講義アンケート結果から、その展開の有効性が明らかになったからである。今回の事前の授業アンケートにおける問題意識は、国語科教育における新聞の扱い方、具体的な授業展開のあり方、国語における答えのあり方、誘導ではない国語の授業のあり方など、授業の具体論に関するものが多かった。

なお、今回は、問題意識に即して行う授業の前に、新学習指導要領の理解の促す授業を取り入れた(「授業展開」における②~④)。新学習指導要領が示されたからである。授業においては、新旧の目標及び内容を比較しながら、何か変わって何が変わっていないのか検討させていった。さらに、新学習指導要領がこれまでの流れの中でどのような特徴を持つのかについても考えさせていった。

その他、授業を展開するにあたって、次の点に留意した。

① 批判的視点の形成

学習指導要領の解釈において、学習者は一般的に『学習指導要領解説』などに頼りがちである。それらに頼るのではなく、自分の目でどのような特徴があるのか捉えることができるよ

う、批判的視点の形成をねらった比較読みを導入した。

## ② 協議力の形成

学校現場では、教師の授業協議力が問われる。授業は基本的にディスカッション形式をとった。授業を捉える視点のみならず、発言の仕方、質問の仕方等についても具体的な支援を行うことによってその力の育成を図った。

## ③ 読解力の育成

論文を読む力は、「成長する教師」となるために必要である。授業において国語科教育に関する論文を提示し、いかに読んでいけばよいのかその指導を行った。

## 4. 授業外学習について

必要に応じて事前学習として課題を出し、それに考えてくるよう指示を出した。3年次後期の国語科教育法Ⅳの専門的な授業学習を念頭に置いてのことである。

## 5. 授業のアンケート結果

授業後に授業方法（受講生の問題意識を承けて授業を構想し展開するやり方）に関するアンケート（名前は無記入）を行った。以下、受講生のその記述をいくつか挙げる（下線＝筆者）。「今期の講義では、今までに受けてきた国語教育の講義と関連させて、より具体的な事例を扱うものが多かった。これにより各個人の問題意識が刺激されたように感じる。無論、私自身も、である。」

○「この講義では、現行の学習指導要領と新学習指導要領を見比べたり、現在の国語教育が抱える課題などについて深く考察し、また、他の人の考えを聞く機会があり、国語の教育方法を見つめることができた。それと同時に自分が現場に立って指導するまでに不足している力が明確になった。この講義では授業の実践方法の例も示して下さったので、自分が不安に思っていた誘導しない授業方法についてヒントを得ることができた。」

○「自分たちの気になること、興味のあることについて体験等を交えながら学習することができたので、良い学びができたと感じました。興味のないこと、学んでもしょうがないと思うことでなく、実際に自分たちが教師になった際のことを考えて自分たちで感じた課題を皆で学ぶことができ、自分の問題として積極的に学習に取り組めたように思います。」

○「問題意識をもとに構成された授業ははじめてだったので楽しく授業を受けることができました。学生の中から出た問題だったので、先生から出される問題よりもスッと考えられた気がします。また、国語教育の研究者の名前や資料もたくさん知ることができたので勉強になりました。来年の国語教育研究Ⅰでも今回の形式でやってほしいです。みんなの問いをもっと見てみたかったです。」

○「本講義を通し、私は改めて国語科教育とはどのようなものか、どう指導していくべきかについて考え直すと同時に、教師像を抱くことができた。」

○「今期の授業は、今まで学習してきたことをもとに、自分が持った問題意識を解決していくことのできるものであったように思う。一回一回、提示されたことについて、いちいち皆で考えることができ、さらには、自分がどう考えていくか、どう思ったかを深めていくことができたように思う。もし10年後、自分がこの文章を読み返したときには、自分が抱えた問題を解決できていることを期待する。」

○「学生の間で授業が構成されることで、私たちが今まさに知りたいこと思っていることを学ぶことができる授業だったと思います。ただ、問いを立てる時間が短かったです。私は漠然と考えていることや気になっていることはたくさんありますが、問を立てるとなると、それらをつなげていって、いちばん考えたいところが見えてきます。授業内の短い時間で書かなければいけなかったので、自分の中で十分に整理できず、すこし消化不良でした。」

○「時間的に授業で触れられなかった自分が立てた問いについて深めることができなかったことを少し残念に感じた。」

○「この授業は、自分たちで立てた問いを基に構成されていた。自分たちで立てた問いについて深めることができることはとても面白いと感じた。」

## 6. まとめ

アンケートを見る限り、問題意識に即して授業内容を構成していくという展開に対する評価は高いといえよう。また、「成長する教師」に必要なとされる自問自答の力の形成を見て取ることができる。

授業レポートの内容も充実したものであり、国語教育のあり方に関する考究的態度を見て取れることができた。授業の工夫の効果はあったように思われる。